

図表1 日本型健康経営を基礎とする国際標準の開発

日本主導で、世界の課題を解決
日本の健康経営のエッセンスを世界標準の形にして、世界に普及させる
－ ポリシー
－ プロセス
－ 手法、デバイス、指標等々
＊日本の健康経営を世界へ普及
→世界の社会課題解決
→日本のヘルスケア産業の発展
→日本の経済、社会課題解決

出所：2020年12月9日健康投資WGでの説明資料より抜粋

図表2 国際規格ISO 25554の概要

◆規格名称	ISO 25554:2024 高齢社会・地域社会と組織のウェルビーイングを促進するためのガイドライン
◆規格概要	本規格は、地域や企業等あらゆる規模・性質の組織を対象に、組織とそこに属する一人一人のウェルビーイングを推進する取り組みを支援するためのガイドラインです。また、このガイドラインに沿った日本の事例として健康経営や自治体の取り組みの好事例、デジタル技術活用の概要も紹介されています。 本規格では、取り組むべきウェルビーイングの領域を地域や企業等それぞれの組織が明確に定めて活動することを推奨しています。また、その内容はWHO(世界保健機関)におけるヘルシーエイジングの理念やSDGs(持続可能な開発目標)における「誰一人取り残さない」という理念に即したものであることを前提としています。そのうえで、以下のようにウェルビーイングを推進するための実践方法を示しています。 例えば、 ・取り組みを構成する主要な要素(誰を対象とするのか、何を具体的な成果として目指すのか、そのために何をやるのかなど)の設定 ・実践するために推奨される工程(計測、評価、改善など)の設定 があげられます。加えて、データマネジメントをはじめとする、組織として留意すべき重要事項等も提示しています

出所：第1回健康経営推進検討会(2024年12月19日)資料より抜粋

1月から開始するので、興味のある方はこちらもご利用いただきたい。
ウェルビーイングISOシリーズを活用した健康経営の国際展開
2024年末の一号規格の発行により、健康経営の国際展開も具体的に計画を進めており、大別して欧州地区とアジア地区で異なる活動を展開している。ここからは、展開をすでに開始しているアジア地区を事例として解説する。日本型健康経営のアジア展開は2019年のスリランカから始まっている。その後テロ事件や新型コロナウイルス禍等、スリランカ国内情勢の変化で中断していたが、2025年夏より健康経営顕彰制度復活の希望がスリランカ側からあり、現地日本貿易振興機構(JETRO)を中心として、健康経営顕彰制度の再開支援を行っている。再開後は一号規格に概ね準拠した顕彰制度

とし、表彰式は2026年2月を予定している。またアジア地区では、2025年から日本主導でタイで新たに健康経営顕彰制度の立ち上げを計画している。計画では、一号規格に準拠した健康経営活動であり、かつその活動成果が自社の経営課題解決のみではなく、同時にタイの経済、雇用および保健分野での社会課題解決に資する優秀な取り組みを加点項目とした顕彰制度設計を企画している。2026年度からPOCを行い、2027年度の正式開始を目指している。
ここまで、ウェルビーイングISOを活用し、ウェルビーイング重視社会(世界)の実現に向けた活動の一端について紹介してきた。多くの国が高齢社会に向かうことで生じる社会課題を、日本の官民が一体となってリーダーシップを発揮し解決に貢献することは、いち早く高齢社会に突入した国の社会的責務である一方で、日本の関連業界の視点からは新たな事業機会の創出となる。さらにはウェルビーイングを価値軸とした未来社会の実現には、ウェルビーイング関連企業だけでなく社会全体の参画が必要となる。本稿の読者の皆さまと一緒にこの未来社会の実現に向けて歩むことができれば筆者の無上の喜びである。

※1 ウェルビーイングISOガイドライン認定
※2 国際標準化にかかわる経過の詳細
(経済産業省健康経営推進検討会資料)



ウェルビーイングISOシリーズの国際標準化戦略

社会的健康戦略研究所代表理事

浅野健一郎

あさの けんいちろう



日本主導でウェルビーイングISOシリーズを開発

日本経済社会を支える基盤として、健康経営は国際社会への普及も視野に入れつつ官民連携の体制で進めてきた。活動の特徴は社会実装の基軸を顕彰制度にしている点にある。当初は経済産業省が健康経営優良法人認定事務局を担っていたが、社会普及に伴い、認定事務局も民間へ移行し民間の創意工夫を活かせる体制に変遷してきている。

この健康経営が日本社会に定着し始めてきた2020年12月、経済産業省健康・医療新産業協議会健康投資ワーキンググループにおいて「健康寿命延伸分野の市場創造と産業育成」をより一層進める世界戦略として、掲題の日本型健康経営を基礎とした国際標準「ウェルビーイングISO」を日本主導で開発する決定がなされた(図表1)。

国際標準の戦略ツール化の動きは、すでに欧米や中国等が活動を活発化しており、競争優位獲得の強力な戦略ツールとして、国際標準

準等のルールを自国や自社優位に策定し、市場競争優位を獲得するルールメーカー戦略を急速に拡大させていた。日本はこの動きに乗り遅れており、今回ルールメーカーとしての世界におけるポジション確立も狙い、世界戦略ツールとして選択した。

ISO 25554の発行と日本のリーダーシップ

この日本が主導するウェルビーイング領域の国際標準開発は、日本の社会課題解決と経済発展の両立(Social ISOの実現)を目指して2020年から活動を開始している。健康経営・ウェルビーイング領域は、課題先進国として日本が世界に先駆け突入しており、多くの国々が追随してきている。この領域の取り組みは、少子高齢社会における社会課題解決に寄与するものであり、幸運なことに世界が日本の成功事例に注目していた。このような背景から、日本が国際標準委員会の中で議長、プロジェクトリーダー、事務局を担い、4年を超える国際議論と投票手続きを経て、20

24年11月にウェルビーイングISOシリーズの第一号規格が発行に至った(図表2)。この規格の特徴は、制度や文化の異なる国々の多くの組織で活用できるように、ウェルビーイング向上活動プロセスを標準化した点にあり、健康経営度調査票とは補完関係となる。

この国際標準開発の成功によって、日本が世界でリーダーシップを発揮し、各国の高齢社会における社会課題解決に貢献するとともに、新たに健康・ウェルビーイング関連の世界市場を創造することで、日本のヘルスケア産業界が世界で有利に事業展開できる環境づくりおよび産業育成を図る基礎となる土台が確立された。

現在、第二号規格となる事例集の開発を進めており、今後第三号、第四号規格まで順次開発を計画している。並行して、ウェルビーイングISOに関連するサービスや製品、評価技術等に関しても、日本企業(業界団体)が主導して関連規格群開発に着手しており、先行する口腔ケア領域(オーラルフレイル予防)では、国際提案のステージまで進んでいる。